

# 平成28年度 協働のまちづくり活動支援事業公開選考会

## < 事業内容・質疑応答 >

### 1 語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭



#### 【事業名】「えべつ俄（にわか）」

#### ◆事業内容

- 幼児から一般の江別市民、そして全国民を対象に、江別の良さをアピールする。  
「えべつ俄（にわか）」を全国民が知っている状態にする。
- ① えべつ俄（にわか）」公演を12回実施。

#### ◆質疑応答

選考委員：地域の人との交流を図っていける団体として可能性を秘めていると思うが、イベントの他に、老建施設でも公演を行う以外に、江別市内で地域連携を進めていくことを考えているか。

発表者：今年からボランティア団体として登録したので、そこから江別市内の各所を紹介してもらい、いろいろな所で公演を出来るような幅が広がるのではないかと考えている。また、今年やきもの市で行われる外輪船でのイベントで江別子ども演劇クラブの子供たちにえべつ俄をやってもらうことも考えており、幅広い年代に広めていける可能性を感じている。

選考委員：去年、今年と不足している資金があると思うが、それはどのように補っているのか。

発表者：去年の土佐市の公演は自費で賄った。いろいろな所をまわるのにどうしても旅費はかかり、今年も北見で公演を行う事も考えているが、自己負担が出てしまう事は仕方ないと思っている。

選考委員：今年で3年目だが、過去2年よりもどのように発展しようという考えがあるのか。

発表者：拡大していきたいという気持ちは強くある。

選考委員：どういう内容をもって拡大していくのか。

発表者：先程の内容と重なるがボランティア団体に登録したことで活動範囲が広がると考えている事と、マスコミにももっと訴えかけていきたいと思っている。

選考委員：昨年も述べたが製作したパンフレットの効率的な配布をもっと考えられな

いか。広く配布することで自治会にも広がるのではないか。

発表者：公演で配る分でかなりの数がなくなるが、増刷するなりして幅広く配布出来るよう心がける。

聴講者：昨年度、土佐市の北原俄と交流をもったそうだが、その後北原俄さんとは交流を図っているのか。

発表者：3年後に土佐の文化会館が新築されるので落成記念に公演をさせて頂ければと思い、連絡を取っており、また北原俄の台本を頂いたり連絡を取っている。

聴講者：1、2年目は幕を作ったり、パンフレットを作ったりしたが、3年目の今年は今までとは違う新たな活動はあるのか。

発表者：今までの活動の実感で実際の公演の回数が増やしていけそうな事と、こども俄や他の団体に俄をやってもらうことも考えている。

## 2 北海道サブカルEXPO実行委員会



### 【事業名】北海道サブカルEXPO

- 北海道サブカルEXPOを通じて、街の発展、学生が活躍できる場、学生・街・市民の交流の場とする。
- ① 北海道サブカルEXPOの開催。

### ◆質疑応答

選考委員：この事業が地域の課題、協働のまちづくりの観点から、衰退したまちの中で、

若者が元気よくこのような活動をするとう経済的にもまちの発展にも繋がるという事ですが、予算を見ると1回しかできないということと、継続していく・発展していくという見通しはあるのか。また、一般市民をどのようにして巻き込んでいくのか、大学との連携の仕方やどのように巻き込んでいくのか教えて欲しい。

発表者：現状は限られた予算の中でやっている。不足分は自己負担で20万の予算をかけてやっており、年1回になっています。今年2月にやった時は親子連れが多く好評も頂きました。学生の巻き込みについては苦戦しておりますが連携を深めてやっていきたいと考えている。

選考委員：コミセンで開催した時にアンケートをとったことは評価できる。そのアンケートの中でどこから来たとか、出てきた意見を少し紹介してほしい。あと一人で動いている印象を受けたが他の会員は学生なのか。

発表者：アンケートの意見は、ダンスパーティの時間が短かったとか、コスプレして動ける場所が少ないとかがあったので野幌公民館の開催ではグリーンモールを使っていきたいと考えている。スタッフは1名が千歳科学技術大学の学生、その他は社会人。学生は技術面でのサポートをしており、他のスタッフはチラシやポスターの配布でお手伝い頂く予定。

選考委員：支援事業でお金がもらえるということは大きいのかと思いますが、支援事業が終わった後も活動の継続は可能か。また、もし活動が大きくなった場合も江別で活動を継続する気持ちはあるのか。

発表者：支援事業は開催することを決めた後に聞いたので、支援事業がなかったとしても開催する予定であった。今後不足する分は企業からの広告をもらう形をとっていき支援事業が終わっても続けていく。もし活動規模が大きくなっても江別でやっていきたいと思っている。

聴講者：何故江別なのですか。

- 発表者：札幌で開催時 78 名だった。逆に地方で開催する方が来場者を増やせる可能性を感じた事と、江別在住なので近場で開催し易さもあり、学生も多いのでボランティアスタッフの確保もし易い。
- 聴講者：江別は文化レベルの高い地域です。その地域特性の中で 4 大学あるからサブカルというのは違うのではないと思う。また、札幌より江別の方が来場者が多かったから江別というのも違うのではないかと感じた。目的や効果性、意義などが説明の中では明確なものが感じられなかったように思う。
- 聴講者：対象は学生なのか、一般市民なのか、誰だと考えているのか。
- 発表者：自分の中では広範囲に集客したいと考えている。先のイベントでは親子連れも多く、道内外からも来て頂いた。若者向けではあるものの、いろんな年代に楽しんでもらうイベントにしていきたい。

### 3 江別創造舎 （協働の相手方：のっぽろ七丁目放送局）



#### 【事業名】江別の文化・歴史を語る！つなぐ！語り部の記録

##### ◆事業内容

- 地域文化振興活動の一環として、江別の文化・歴史に関して精通した方々による語り部記録をDVD化し、江別の有形文化として残すことを目的とする。
- ① 江別の文化・歴史に精通した4名の方に取材をし、映像と共に概要書を作成し、語り部記録化を図る。
- ② 作成したDVDを教育機関など公共施設に贈呈し、地域文化振興の一助とする。

##### ◆質疑応答

- 選考委員：昨年メディアネット江別と同じような事業なのか。またDVDを公共機関に置くだけで地域の住民は認知し利用するのか。効果の高い配布方法を考えているのか。会員が3人という事でもう少し会員を増やして活動出来ないか。
- 発表者：従来のものとの違いは、教育機関や公共機関に配布することも重要だが、一番大きな事は江別の歴史を知る方、江別の文化・産業に多大な貢献をした方達は非常に高齢なので、歴史を紹介するのではなくそういう方々の生の声、考え方や歴史観を記録することは江別市史においても重要な文化遺産であると考えている。市内への配布と同時にインターネットの放送を活用することで市内外、世界へ向けて発信することが出来る。
- 選考委員：自分達の活動の拡がり、色々な人の巻き込み方、自分達の活動のPRはどのように考えているのか。
- 発表者：活動の根底は江別の歴史・文化を市民の方々に広く伝えていくことを目的としており、江別カルタを用いた活動は現在も行っているが、それだけでなく、生の声を聞くことで違う感じ方が出来るのではないかと考えている。
- 選考委員：DVDをここに置いている、カルタはここに置いているといったように具体的にどのようにPRしているのか。
- 発表者：予算の中にチラシを作ることも含めており、この中に記載していくことを考えている。他にはのっぽろ七丁目放送局の放送の中で紹介していく。
- 選考委員：今回、連携で事業を進めていくと思うが、一般の市民を巻き込んでいく考えはあるのか。またその可能性はあるのか。例えば江別の歴史を地域の人たちが書き残していくとか、学んでいくとか組織する側にまわって地域の方々が歴史を残していこうとする活動は出来ないか。

発表者：放送局でもスタッフを募って取材をしてもらうなどの活動をしてきている。創造舎としても今回の事業でも興味のある方が参加してくれることを望んでいる。先程おっしゃったように地域の方が地域の人を紹介していくようなこともやっていきたいですし、多くの方が参加してほしい作業でもある。出前講座にも参加しているのでそこから発信していきたいと思っている。

聴講者：10年前に野幌商店街にあった「のっぽ」で昔の事を知っている人を呼んで座談会形式で話を聞き、それをアーカイブにして残してあるが、一般の人に見てもらえる機会がなかなかない。PR不足だと思うが、置くだけでなく皆さんに貸し出しを出来るようにすると良いのではないかと思った。

発表者：アーカイブを提供して頂ければのっぽろ七丁目放送局で放送することも出来る。放送はアーカイブで蓄積されているのでいつでも見られるようになる。貸し出しは方法を考えて検討する。

聴講者：情報図書館に行ってもどう伝えるとDVDが見られるのかわからない。

発表者：カルタの時のDVDは放送だけで情報図書館に置いていなかった。今回のDVDは情報図書館で配布するので伝えて頂ければ見られるようになると思う。

#### 4 フォーラム野幌の森 （協働の相手方：日本野鳥の会 江別支部）



##### 【事業名】未来に残そう野幌原始林

##### ◆事業内容

- 「野幌原始林」を江別市民の財産として永続的に守っていくための啓蒙する活動を行う。
- ① シンポジウムの開催と、啓蒙活動のためのパンフレット増刷と配布。

##### ◆質疑応答

選考委員：日本野鳥の会江別支部と連携しているが、単独ではなく連携することの効果はどこにあるのか。また、パンフレットをただ置くのではなく効果の高いPRをしているのか。今年はどうのような講師を考えているのか。

発表者：昨年はイーアカデミアから講師を派遣してもらって野幌森林公園の価値を話してもらったが、今年はまだ予算がわからないので具体的な講師は決めていない。内容は野幌森林公園における生物多様性についてお話してもらおうと思っている。パンフレットについては大麻周辺だと多く消費されるが森林公園から離れるとなかなか手に取ってもらえない。効率良い配布方法・配布先を考えていきたい。

選考委員：継続事業として、昨年度との違い、来年度の展望はあるか。

発表者：壁にぶつかりながら前に進んでおり、具体的なものはない状態ではあるが、森林管理署、北海道博物館とも連携を取り、情報交換を活発にしながらやっていきたい。一般の人のマナーを向上させていくには地道にやっていくしかないと考えている。

選考委員：環境ひろばにも出展しているということでしたので、希望なのですが、自分達だけではなく、他の団体と何が出来るかを考えて頂ければこの事業を広めていくことに繋がるのではないかと思う。

発表者：いろいろと考えて頑張ってみる。



## 5 江別子ども劇場



### 【事業名】江別子ども演劇クラブ

#### ◆事業内容

- 演劇を通して、子どものより豊かな表現力やコミュニケーション能力を高める
- ① 講師による指導を受け、11月の「こども文化祭」や7月のアートスペース外輪船のイベント出演と施設訪問を行う。

#### ◆質疑応答

選考委員：会員の子どもの数が6人しかいないのは寂しい。パンフレットは配っているようだが、もう少し会員を増やす工夫が必要ではないか。

発表者：新たな試みとして今年の5月にワークショップの形で体験会を実施し、ここに来てくれた方が入会してくれた。そこで小学校のPTAの役員をしている子ども劇場の会員のお母さんに小学校でも出来るとお聞きし、夏休みに上江別小学校で開催しようという動きになっている。今年度は体験会をどんどんやっていきたいと考えている。

選考委員：子ども劇場の会費と演劇クラブの会費があるが、これは別々なのか。それと子ども劇場の会員には割引があるのか。また、昨年の資料で一般の会員というのもあると見たが、現在の会員に子ども劇場に入っていない一般の会員はいるのか。

発表者：演劇クラブは、一般で入る場合は3,000円/月で案内している。子ども劇場会員は1,000円/月として差別化している。子ども劇場の会費1,000円/月、親子で2,000円/月なので子ども劇場に入会しても同じ金額になる。子ども劇場は親子で育ち合う会なので入って決して損はない。6名の会員はすべて子ども劇場の会員である。今年度体験会から入会された方も子ども劇場の会員になった。

選考委員：今年3年目で最後となるが今後も続けていく予定か。

発表者：続けていくつもりである。

選考委員：子ども演劇クラブを演劇という形でもっと広く活動出来ないかと思う。他の演劇をしている組織との連携を進めて頂ければと思う。

発表者：出来るだけいろいろな所で発表してたくさんの人に見てもらいたい事が広がりに繋がると思うし、ワークショップも多く開催し広げていきたいと思う。